

さいたま市公民館運営審議会第11回会議 議事録

1 開催日時

令和元年7月23日(火) 午前10時00分から11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 石田 玲子 委員
- ③ 碓井 麻由美 委員
- ④ 加藤 正晴 委員
- ⑤ 金今 義則 委員
- ⑥ 久保木 央 委員
- ⑦ 島田 正次 委員
- ⑧ 寺田 道子 委員
- ⑨ 中澤 輝夫 委員
- ⑩ 堀杉 幸子 委員
- ⑪ 山崎 秀雄 委員

〈拠点公民館職員：10名〉

- | | |
|----------------|-------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 森田 隆之 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 桑原 健司 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 柳 潤子 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑥ 桜区 田島公民館長 | 押田 龍彦 |
| ⑦ 浦和区 岸町公民館長 | 星野 務 |
| ⑧ 南区 文蔵公民館長 | 芳賀 善久 |
| ⑨ 緑区 大古里公民館長 | 島村 光一 |
| ⑩ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：5名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|----------|-------|
| ① 館長 | 吉田 治士 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |

- ③ 管理係長 小高 一晃
- ④ 主幹兼事業・企画係長 荻原 唯史
- ⑤ 事業・企画係主任 石渡 洋祐

4 欠席者名

〈委員：3名〉

- ① 山田 玲子 副委員長
- ② 山崎 栄慈 委員
- ③ 小池 茂子 委員

〈事務局：2名〉

- ① 伏見 浩美 社会教育指導員
- ② 最首 紀子 社会教育指導員

5 議題

- (1) さいたま市公民館運営審議会答申「特色ある公民館事業について」の案について

6 配布資料

- (1) 本日の会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第11回会議出席者名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第11回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第10回会議議事録(案)
- (5) さいたま市公民館運営審議会「特色ある公民館事業のあり方について」答申(案)
- (6) 答申「特色ある公民館事業のあり方について」(案)に係る意見票(反映分)

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

審議冒頭、前回(さいたま市公民館運営審議会第10回会議)の議事録について、承認を経て議事に入った。

議題1の公民館運営審議会答申「特色ある公民館事業のあり方について」の概要を事務局より説明した。

山中委員長	どうもありがとうございました。1つ前10日のものは委員の皆さまに共有されているということでよろしいでしょうか。
石渡事業・企画係主任	第10回審議会の委員意見反映版というこれが前回の、返答頂いた後のものです。
山中委員長	<p>皆さまのお手元にある1個前のものと今ご覧にいただいている最新のもの、相当違うということで印象をお持ちになるのではないかと思います。以前のものから順番を入れ替えもありますし、用語を整えたというのもございます。似たような言葉、なるべく同じ用語で統一するとか、なるべくシンプルにメッセージ性を余計なもの排除していく形でいい意味でシンプルにしてくださいと思っています。特に図の刷新でよく分かるように思いますが、かなりシンプルなものにさせていただいております。今改めて拝見すると図の中の言葉も統一したほうがいいのかと思いますが、分かりやすくしているのではないかと思います。「内野」の方は、なかなかシンプルに出来ない、矢印が色々出てきておりますが、表現の仕方でしょうか。</p> <p>前後しますが、事例ですね。3つあげていただいておりますが、そこでなにを成果と考えるかというところも整理していただいております。これまでの答申内容を少しはみだすかなというところも、整理していただいております。気になるところなど中心にご覧いただくなどして、ご意見を出していただけたらと思っております。</p> <p>お気づきのところからマイクを回していただく形になりますが、お意見頂戴いただけたらと思っております。意見表と反映箇所に関してもまとめていただいておりますのでそちらもご参考になるかと思っております。</p>
山崎秀雄委員	<p>それでは最初ですのでみなさん色々ご意見あると思いますけど。わたしはこのイメージ図について。だいたいこういうものを見る時最初にイメージ図が目に入ってくると思っておりましてので意見として、出させておりますけれど、非常に簡潔に変更していただいているのですけども、ちょっと気になるのが5ページの一番下のイメージ図で、左側が「公民館が事業を行う上での課題」というのが引っかかるのです。それから次の6ページの「地域の課題」私が公民館でやっている、日進公民館の場合は地域の課題なのですね。まさに子供達にこの伝統を承継していくうえで子ども達になかなか伝わっていかない。地域的な課題があったものですから。それを公民館がひとつの課題解決のきっかけをつくってくれたということで、この図でいいと思うのですけど。5ページの方の公民館が事業を行う上での課題というのは、前の説明で見るとよくわからないので、同じような問題は同じ文言にしたほうがいいのかも思われます。かねてから、わたしがこの特色ある公民館事業というものには、前段の9ページの一番上に公民館事業における現状の把握・課題の整理これがまず基本だと思うのでそれをするためにはここにも書いてありますけど…地域に出ていくという言葉がありましたけれども。</p>

	<p>公民館はそこがまずスタートだとするとこの課題という部分を確認した上で事業展開に入っていくべきかと思うので。また公民館がそういう事やっていたと地域コミュニティですとか地域福祉の推進に非常に大きな力になると思うので…課題の整理。その部分について、まずこれがきっかけになると思いますので、そこをちょっと直していただけたらわかりやすいのではないかと思います。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>事前に打ち合わせをして、確かに話題にはなったところです。岩槻の公民館のダンス教室の取り組みと日進の餅つき踊りの取り組みも図にする場合、違いはどこにあるかというところで、確かに論点の一つになっておりました。ご指摘のように、その前のところの3ページから「さいたま市の公民館事業の現状」とありますがそこと(1)のイメージ図、5ページのイメージ図のなかの「公民館が事業を行う上での課題」というところが結びついているのが分かるような表記にしていく必要があると思いますが。事務局として何かこの辺説明を足していただける事ございますか？岩槻の取り組みでイメージ図(1)の表記にした理由を今一度ご説明いただければと思います。</p>
<p>荻原主幹兼事業・企画係長</p>	<p>ご説明させていただきます。こちらは、今までの審議会の中で事例発表ということで発表していただいた公民館いくつかの中から、今回はこの3つの例を答申の方に取り上げるという事で入れてきました。確かに日進公民館の地域のお祭りに関して着目して、先程山崎委員が仰っていましたように、公民館職員から地域の方に出向いて行って、そこで何か連携が出来ないかというところが出発点でありました。岩槻北部公民館のサマースクールほくぶにつきましては、これがその連携の始まりというところで考えますと、お祭りという地域の公民館の周りにあったものからの出発ではなくて今まで岩槻北部公民館の中で小学生にダンスを教える、学んで頂くダンス教室というものを、民間のダンススクールの講師などを呼んで今までやっていた形が、まずは、今までと同じ形ではなくて講師をどうやって、誰に頼んでいくのかというところで、隣接する高校があるじゃないかというところに気づきというところがありました。そこで高校のダンス部の生徒さんに、お願いする事が出来ないだろうかというところが、連携への始まりだった、というものの事例であったので、その時点では、本当は地域の課題から全部出発して、そして地域の現状の把握、課題の整理を行って、そこでまた連携を図っていきたいという流れにしたいところですが、地域資源の再発見、再活用というところの中でも指導者のところの発掘と言いますか発見と言いますかという点で見れば、公民館から離れたところからわざわざ講師を呼ぶのではなく、本当に公民館の周りにあるところで、今回のこの岩槻北部公民館と言え、隣接する高校にダンスを教えらる指導者がいるじゃないかと、そういった資源があるじゃないかというところを地域資源の再発見・活用ですね、というところで今回はそのように岩槻北部公民館の方で工夫を行ったという事例として捉えていければというふうに考えております。</p>

山中委員長	<p>課題という事では直接的にはリンクしない可能性がありますね。その事業の特徴としては、とても価値があるなと思いますが、ご指摘のあったような課題がどうおさえられていて、それをどう打開するのかを考える上でどうなのか。岩槻の館長さんに教えて頂いていいですか。今回、答申の方で明記させて頂いているサマースクールほくぶ夏休みダンス教室、これは既存のダンス教室の講師を代えるなり講師の依頼先を代えるなりして、既存の事業を変えた形での地域との新たな繋がり方ですが、このような既存事業の刷新の仕方というのは、岩槻北部公民館の何らかの課題に対してヒントをもたらすものなのでしょうか。</p>
岩槻本丸公民館長	<p>岩槻北部に限らず、岩槻地区と言いますか区全体もそうですが、やはり地域との連携というものが非常に少ないという今特性があるというのは事実です。その中でやはり北部公民館の方で何とか特色のある事業を展開したいという事で、お隣の岩槻北陵高校のダンス部の生徒さんに小学生のダンスのサマースクールほくぶのレッスンをお願い出来ないかという事でやっていますが、何年もやっているわけではないんですが、その新しいものを新しい形で、そういう形で連携を深めていければという事でやっていくという事で認識しております。</p>
山中委員長	<p>例えば、無理やり繋げていいのか分かりませんが、3ページ目の事業を行う上での課題をまとめて頂いているところがありますが、どの辺りに該当するのでしょうか。特にどこに関わると理解したらよろしいですか。</p>
荻原主幹兼事業・企画係長	<p>事務局の方より申し上げます。3ページの中でどこの部分に書いてくるかと言いますと3ページ、2番の(1)番のエの講師、指導者が減ってきているというところにかかってくるというところで、岩槻北部さんの場合は講師をどのように頼んでいこうかという公民館の職員が企画する中で近隣の高校というところに着目して、そこで新たな講師の依頼の道を発掘したと言いますか切り開いたというところにかかってくるということになるかと。</p>
山中委員長	<p>新たな講師の依頼先を変える事が結果的にも地域資源の発掘にもなったということなのですが、それをもともと目指してやったという事なのでしょうか。</p>
山崎秀雄委員	<p>私の方でよくわからない質問して申し訳なかったのですが、あの私が答えとして期待しているところは、今の話聞く前からそう思っていたのですが、この課題としては、予想される課題としては、若者の参加が少ないということが一つの課題であったとすれば、いかに若者を、子供たちを、参加してもらえなかったという事で一つで、地域にそういった指導者を探したということか。もう一つは、お話がありました指導者さがし。講師探しが非常に公民館として課題だったので、その中のアイディアとしてすぐそばの子供たちと顔見知りの、顔がわかっている人の指導者をさがしたいという事でこういうふうになったか？私が予想するには、その二つのどちらかぐらいかな、と思ったので、そうであれば、簡単に盛り込めればなというかな、思いました。</p>

山中委員長	事業を行う上での課題であり、確かに参加者が集まらない。青少年若者対象事業というものもございます。やはりどのような課題があるのかそこにひきつけながら明確に説明を加えて頂けると良いのかなと思います。その他のところでもお気づきの点等ありましたら是非ご意見頂戴出来ればと思います。
中澤委員	不勉強で恐縮ですが、今論議であるところの(ウ)の成果ってところですが、異年齢交流という言葉が出てきていますが私の認識では異世代交流の方がよろしいんじゃないでしょうか。
山中委員長	そうですね。基本的に異年齢が多いとすると、世代の方が広がりはあるかなという印象が私もございます。そうですね。世代間交流、世代。
島田委員	ずばり、言い過ぎているような気がしますね。
山中委員長	そうですね。ピンポイントかもしれませんね。世代ですかね。
荻原主幹兼事業・企画係長	今ご意見頂きましたように、異世代という形の方が適切なのかなと思いますので、そのように改めさせて頂ければと思います。
寺田委員	少し細かいことになるかもしれませんが、4ページの下から3行目のところで、「しかし、公民館事業に」という文章がありますが、この文章は上からの流れにして、しかしではなく、まとめているので、したがってとか、そういった言葉に変えた方がいいのではないかと思います。
山中委員長	ありがとうございます。確かに、接続詞を変更されるとよいと思います。
寺田委員	もう一点よろしいでしょうか。2ページの8行目あたりに親自身が気付く学習というのがありますが、2つ目の段落の一番下のところですが、気付く学習という事で、気付くというのは、よく分からないのですが、気付くでよろしいでしょうか。
山中委員長	事務局の方でご説明頂けますか。親自身が気付く学習についてです。表記のレベルから、内容的な事まででしょうか。2ページ目ですね。2ページ目の2段落目の1番最後のところで、ご説明頂いてもよろしいですか。現在、親自身が気付く学習を全館で実施しているというところです。
荻原主幹兼事業・企画係長	事務局の方より説明いたします。こちらの内容につきましては、現在、全ての公民館で行っております親の学習事業の事を慣例化した形で表現をしていますが、親自身が気付くというのは、こちらでは全部書けなかったんですけども、親の学習主体は、参加していただくお父様、お母様がグループ学習という形で、グループワークという中でお互いが子育てのことにに関して、自分のおうちの事であるとか、今思っていることを話し合いをして頂いて、まわりの方のご意見を聞いて、その子育ての事につきまして、例えば、その子育ては自分も大変だけれども、まわりの家も変わらないなとかという共感と言いますか、あるいは、まわりのおうちの事を聞きまして、そんな事も子育て上については参考になるかなというところの、そういった気付きという形ですね。
山中委員長	ご指摘のようにちょっと分かりにくいと思いますので、一発で読めばこういう事業ねという内容が把握出来る様な文章にされると良いと思います。

荻原主幹兼事業・企画係長	こちらもう少し分かりやすく内容を修正したいと思います。
山中委員長	お気づきの点等、他にございますか。色々お出しいただいて、あと2回でまとめて完成させたいというところです
金今委員	前回から、事務局の方が苦勞して作って頂いているイメージ図についてですが、例えば5ページのイメージ図を見ますと、2つの事が合わさって、イコールで新たな事業という形になっていますが、2つのものが合わさって、新しいものが作り出されるというイメージで行くと、イコールよりも矢印であった方が分かりやすいのかなと思います。同じように6ページの図についても、地域の課題が出発点で、それに2つのものが合わさって新たな事業という形ですから、ここはイコールよりも矢印であった方が、イメージとしてはわかりやすいのかなと思います。
山中委員長	私もそのように思いますがいかがですか。生み出されるという意味合いは、矢印の方がいいかもしれません。矢印にして頂くという事で皆様よろしいですか。
荻原主幹兼事業・企画係長	はい。そのように改めたいと思います。
山中委員長	5ページ目の岩槻北部公民館さんの事業の図、周りにある資源という言葉は地域資源と言い換えてはだめですか。なるべく言葉を統一させておいた方が良くと思いました。成果の中にもあるんですね、地域資源。
荻原主幹兼事業・企画係長	はい。こちらですね。地域資源という形で言葉を統一といいますか、整理を。
山中委員長	(1)の公民館が周りの資源を活用した事例という小見出しというんですか、ここも地域資源と変えてもいいですか。
荻原主幹兼事業・企画係長	はい。こちら、周りの資源という部分を地域資源という形で、整理をさせていただきますと思います。
山中委員長	なるべく似たような言葉を統一していった方が分かるかな、という感じがいたします。ご意見いかがでしょうか？前回この一つ前にお渡ししているものから、変更点はたくさんございますけれど、変更点を上げたら結構ありますね。
石田委員	3ページ目の(2)。広報の(ア)の毎月発行している館報のチラシやポスターを作成し他館や地域団体へ配布、掲示依頼するところですね。先日ちょっと公民館の方で、連絡会議があったんですけど、そこでは小学校にチラシを持っていくということを言われていたんですね。ここにはその小学校に持っているようなことはうかがえないんですけど、もうちょっと学校のとこに出しているということであれば明記した方がいいかなと思います。
山中委員長	この場の意見だけをここで掲載させていただいているので、もれているということですかね。たまたま出なかったということでしょうか。

<p>荻原主幹兼事業・企画係長</p>	<p>こちら3ページの内容というのは、その当時ですね意見交換会で職員の方から発言が出た中で拾って例示してありますが、確かに各公民館で近隣小学校さんに対して、直接学校さんをお願いしてチラシを配布してくださいという依頼は行っているの、ということをお考えますと、こちらのところに入れてもいいのかなど。地域団体という中に、学校も含まれるという形ではあるのですが、ただ見え方としまして学校ということを入れていきたいと思っております。</p>
<p>島田委員</p>	<p>その3ページの(イ)ですね。そこに、児童センターや公園にいる子供連れの方にチラシを配るといふのは、こういう答申の中でいいんですかね。個々に集めるのならその方法でいいんですけど子供連れの方に、たとえ字のごとく公園で遊んで方に配るっていう、個人的な誘いになって公なやつはそこまでそういう行動が出来るのかとちょっと疑問があったんですけど。</p>
<p>荻原主幹兼事業・企画係長</p>	<p>これもですね、その時に出席した職員が結局、講座を企画して募集を行って、人が来ない時に公民館職員が自ら宣伝マンとなって、外に飛び出し近隣の公園で、チラシを道行く人に配っていますよという、頑張っていますというところをですね、表現したのですが、ただその意見交換会でいろいろでた職員の工夫のところの意見だったんで、今お話ございました通り、今回、答申の中で捉えるとするのであれば子供連れの方にということをお考え、もうちょっと個人的な表現にならないように何か工夫をさせていただければと思います。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>色々気を使わねばなりませんね。他にいかがでしょうか。3、4ページ、5ページ目ぐらいまで意見が集中しております。勿論それでも結構ですが、その先もまだまだございまして、お願い致します。</p>
<p>碓井委員</p>	<p>今の場所ですが3ページの2の児童センター、図書館にも配布していると思っておりますが児童センターや図書館などへ積極的または、他、積極的な配布方法など、そこら辺の文章を考えていただくと、分かりやすいかと思っております。児童センター、図書館、他、積極的な配布方法のような文章を考えて頂くといいかもしれません。あと、1点気になったところがありました、他のページで、いったん戻します。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>今ご指摘頂いた学校もそうです、図書館、色々なところが入るような表現で変えていかれる事が重要です。そのようなご指摘とお受け致します。</p>
<p>碓井委員</p>	<p>あと1ヶ所。8ページのアの公民館の行動力ですが、これはきつとお話する時の文章をここに用いたのかもしれませんが、公民館が自ら地域、職員が自ら地域へ出向き地域課題の発掘を積極的に行っているところが重複しているように考えられるので、この自ら地域へ出向きは必要なのでしょうか。要らないように考えられます。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>今のご指摘ありがとうございます。8ページ目ですが、8ページ目のアですね、公民館の行動力の(ア)です。大きいアの更に(ア)で、公民館職員が自ら地域へ出向き、という意味内容が次の文言と重複しているのでは要らないのではないかとおっしゃいますね。確かにそうかもしれないですね。自らっていうのがポイントだったかもわかりませんが、発掘はあった方がいいですか。</p>

山崎秀雄委員	私はこれがあった方がいいと思います。意見として、今社協も区役所の福祉部もそうですが、アウトリーチという言葉で、地域に出ていくというのが欠けているんですね。民生委員さん達にもご迷惑かけているんですけど、色々、地域の事を知るためには地域に出かけろという事を今、色々とお願ひしています。そういう意味でいくと、地域の事を発掘するためには出向けという事を載せてもらったのが嬉しかった。この言葉が私は大切なのかな。課題の部分にもありましたが、課題を知るためには地域を知る。そのためにはアウトリーチしなければいけないのだというところを公民館だけじゃないんですが、行政はきちっとやるべきだと思っているので、この事は非常にいいのではないかと私は思いました。
山中委員長	今のご意見いかがでしょうか。自ら出ていくという事を強調していくと読んでくださる方に伝わるようにするためには、残しておくという事も必要でしょうか。出向くという言葉も必要ですかね。自らだけじゃなくて出向く。自ら発掘し、だと駄目ですか。何かご意見他にありませんか。表現上の問題を越えてそういうメッセージを込めるんだということに関してです。
久保木委員	自らって書いた方がより新鮮な感じがしますね。今までやってない事ですから。多分。
山中委員長	確かに3つの事例はそこですもんね。自ら外へ出て発掘していく。繋がりなおすという事メッセージを殺さない、より正していくという。引き取らせて頂いて事務局等で検討して頂いて。
島田委員	まあこれは色々意見あると思いますけれども、自ら地域へ出向くという事じゃなくて、自ら地域課題の発掘を積極的に行うというのがいいのではないかな。出向くと、自ら地域課題の発掘を積極的に行うっていうのが1番シンプルだなと思っています。あまり公民館の人に押しつけてくれるみたいで。
山中委員長	折衷案をお出し頂いたと思います。自ら地域課題の発掘を積極的に行いというのでいかがでしょうかというご意見でよろしいですか。そのような表現であればメッセージ性も残り表現的にはシンプルになるかな、いかがでしょうか。
寺田委員	自ら地域へ出向きっていうのを地域へだけを取って自ら出向き地域課題のとしてはいかがですか。
山中委員長	今頂きましたご意見は自ら出向きですね、自ら出向き地域課題の発掘を積極的に行い。シンプルにでもメッセージはそのまま保持されるという形かなと。どうですか、今のこの表現。自ら出向きです。
石田委員	どこにでもはいるのかな。
山中委員長	どこでもが、地域ですけどもね。
久保木委員	地域が重複していますね。(寺田委員と) 逆になりますが「自ら地域へ出向き…」はそのままで、「地域課題の…」の地域を削ってはいかがでしょう。

山中委員長	自ら地域へ出向き課題を発掘していくという事ですね。これはいかがですか。よろしいですか。もう1回申し上げますと、自ら地域へ出向きは残りますね。自ら地域へ出向き課題の発掘をしていく。地域課題ではなく、課題という事にするという事で、よろしいでしょうか。
荻原主幹兼事業・企画係長	はい。そのように。ありがとうございます。
山中委員長	シンプルになって、くどさがなくなったけど、メッセージはそのまま担保されているという感じになっております。ありがとうございます。他はいかがでしょう。お気付きのところ、色々とお出しいただければと思うんですけども。
久保木委員	3ページですが、3ページの2の(1)のキですね。職員の協力体制が整っていないって、なんか職員皆さんが非協力的な表現になっているような気がします。これはその下にありますように、勤務形態が異なっていたり、あるいは人数の問題から出来ないという事で、一体化した活動が出来ないってような表現の方がいいかなというような気がします。協力体制が整っていないというのは、表現がちょっと職員さんに対して誹謗するような感じに思えまして、言葉の表現ですけれども、いかがでしょうか。
山中委員長	この協力体制、3ページの(1)のキですね。職員の協力体制が整っていない、協力しているができない、難しさが多くあるという事ですね。そういう所を上手く表現できていないのかもしれないかもしれません。別の言葉を考えていただきたいですね。
荻原主幹兼事業・企画係長	今頂いたご意見で、違う表現の仕方を。今頂きました一体化した活動が難しいか、出来てないか、という形に変えていけると思います。
山中委員長	お願いいたします。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。私も事前に拝読していますが、大きなところだけ確認させて頂いて、事務局の方々と打ち合わせさせて頂いているという状態ですので、細かなところでも、お気付きのところお出しいただければと思います。
寺田委員	今同じところの力のところですが、企画のアイデアが浮かばないとありますが、ちょっと同じような意味で浮かばないという、意味は分かりますが、表現があまりここに載せるには良くないような気がします。もうちょっと違う表現にした方がいいのではないのでしょうか。
山崎秀雄委員	ブレインストーミングで出し合ったことですから、だから、それは直した方がいいんじゃないの。
荻原主幹兼事業・企画係長	はい。そうですね。こちらの意見交換会におきましては、その時に出席した職員の思いといいますか、出ているものですが、その中ではそういう話ですが、今回やはり答申という形で載せるにあたりましては、その辺の表現を答申に載せるにふさわしいと言いますか、そのような形に表現の方を変えていければと思います。

山中委員長	<p>確かに意見交換会で出されたご意見がこの答申にどういうふうに絡むか事前に予想を立ててやっていたわけではなかった事もあります、今書いてくださっているかっこ内の言葉をうまく使いつつ、表現を改めていかれるとより伝わりやすいかな、答申らしくもなるかなという気はいたします。ご指摘頂いたカとかキだけではなく、アからですね。先程岩槻のところでも話題になった講師が減ってきているという意味合いも、エだけ講師が減ってきていますと言うと、ちょっと分かりにくいのですが、かっこ内の言葉をうまく使って、表現を変えていかれるとより明確になるかな、後ろとの繋がりもよくなるかなと思います。3つの事例の説明はどうですか？岩槻と日進についてはいくつかご意見いただきましたが、内野公民館さんの方はご意見はまだ頂戴しておりません。</p>
碓井委員	<p>8ページの真ん中上あたり事業の工夫のところの（ア）の最後ですが、くつもの事業が数珠つなぎしている、数珠つなぎという言葉は連携しているという方がいいかと考えられます</p>
山中委員長	<p>今ご指摘頂きましたのは8ページ目ですが、8ページ目の真ん中上ですけど、事業の工夫の（ア）ですね。いくつもの事業が数珠つなぎしている。確かに読み手には若干伝わりにくいかもしれませんが表現を変更していただくと良いかもしれません。</p>
中澤委員	<p>10ページ目の「公民館職員に求められること」ですが、答申全体を拝見していると、個々の事業をどうするかとか、どういう方策でやっていくかという、ある意味、企画面であり事業面のいわゆるテクニカルなスキルを中心に色々と考えられています。教育という事を考えると、私も企業内教育に携わってきた一人として今、NPOに参加しておりますが、職員やそれを構成する人々の地域教育すなわち教育に対する認識というものが何か必要になってくるのではないかと気がするんですね。私が常々参考にしてている「森信三」という方がいますが、「教育とは流れる水の上に文字を書くようなもの」とおっしゃっております。その効果をすぐさま期待出来ないということで、ものすごく虚しさを感じるものがある。公民館の皆さまも自分のやっていることにすごく虚しさを感じる事があると思うんですね。そういう中で私はそれこそ重要なことであり、個々の小さな成果がまとまってくれば段々と大きな成果に繋がってくる。職員としての地道な努力ものというものを是非共通の認識として持ってもらいたいんです。そういう中でテクニカルなスキルの向上ばかり狙うのではなくて、要するに「教育の心への回帰」という事、こういうようなこと本質的な意味で、皆さんにご認識して頂ければと思うんです。今国でやっている低学年における「生きる力」を育むという、こういう事も繋がってくると思うんですね。ひとりひとりが教育の本質的なものをよくご理解いただいて、あまりテクニカルなものを追い求めないで、個人がしっかりと人間を育てていく、未来の人間を育てていくという考え方を持ち続けることも重要ではないかと思えます。そういう意味で抽象的なことですが、職員の皆さんが携わる公民館事業に、大変な事ですがそういう意識をお持ち頂ければと思っております。</p>

山中委員長	特に10ページ目でよろしいでしょうか。公民館職員に求められることに関わって大変重要なご指摘を頂戴しました。テクニカルなところに焦点を当てすぎるという事ではなく、ですね。これら3つが総合してどういうものが社会教育をどう豊かにしていけるかとかそういう認識を持つ必要があるんだといったことを加筆することは必要かもしれません。特色ある事業を下支えする大きな在り方ということで少し言及しても良いかなと思います。
荻原主幹兼事業・企画係長	ただ今のご意見、いただきまして10ページのこちらの(1)から(3)ありましてその下の文章、一番最後の2行ですね。こちらのその機能を存分に発揮させるにはというところございますが、このところをちょっと変えまして、ここにあの今言いました総合的にことをやっていく中でも、先程中澤委員の方からご意見いただいた内容をいれていけるような形で、ここに入れ込んで行ければと思います。
久保木委員	今のこの10ページですが、公民館職員に求められる事という事で、今日は公民館職員さんの味方をしたいんですけどね。確かにその通りですが、おそらく現実の話として公民館職員さん体制ですよ。見た時に常勤の方が1名と、あと非常勤の方ですよ。そうすると、この求められる対象というのは、おそらくその常勤の方が1名じゃないのかなという気がします。そうすると、果たしてこれをその1名の方が、それだけの資質を求める事も大変だし、今までこれには触れていないんですが公民館の組織として、いわゆる子店と母店というより、拠点公民館なんですかね。ですから拠点を含めてこういう事の体制をですね、どう具体的にとるかっていう事が必要なのかな。文書化するしないにしてもですね、その事をちょっと考えて頂けないかなというふうに思います。
山中委員長	体制のあり方については以前もご意見、頂戴していた事もありましたが、重要でその通りというふうに思います先程の協力体制という言葉に関するご指摘もおそらく関わってくるのではないかと思います。意見交換会でも本当に皆さんご苦労されながら一生懸命お仕事されていることがよく分かりましたが、でも難しい。それを見ないで特色を出せというのは違うと思うので、そこは私も危惧はするところではあります。
荻原主幹兼事業・企画係長	はい、ただ今、頂きましたご意見につきましても、またこちらの事務局側の方で検討をさせて頂きまして、何か入れる事が出来ればと思います。
金今委員	今の10ページのところに関してですが、さいたま市は目指す人間像というのを、今度出しましたよね。やっぱりそれに沿って、それをこう果たす、目指す人間像を育てる公民館職員みたいな、そういう見方っていうのも必要なのかな。今度、せっかくさいたま市が目指す人間像だけじゃなくて、人生100年に亘ってという形で色々出しています。だからそれに対しての公民館職員の関わり方みたいな形でちょっと触れてあるとよりいいのかなと思います。
山中委員長	目指す人間像ですね、今お手元にはありますか。
荻原主幹兼事業・企画係長	ただ今頂きましたご意見につきましても、こちら先程、今目指す人間像っていうのが丁度こちらにあったんですけども、第2期さいたま市教育振興協議計

	<p>画というものが、こちらの31年3月に策定されて、その中で奉仕、教育が目指す人間像としまして世界と向き合う未来のスプリットとして輝き続ける人という1つの方針がございます。これは教育委員会の方でつくったもので、こういったものも含めましてですね、この10ページにつきましては、先程のご意見もありますので、もうちょっとブラッシュアップしたものの内容で、入れこめるものは、入れこんでいけるかと考えておりますので、そのように検討していきます。</p>
山中委員長	<p>よろしく申し上げます。では、最後ですかね、最後どなたか、ご意見ありますでしょうか。</p>
荻原主幹兼事業・企画係長	<p>今後の進め方ですが、本日頂きましたご意見で、また内容、今みたいなのを付け足したりというところが、数か所ありましたので、事務局の方でまたこちらまとめさせて頂いたものを、山中委員長の方ともまた内容を相互で確認させて頂きまして、次回の審議会がまた2か月後ですから、それまでの間に一度案を送り、見て頂いてという事をやらせて頂ければと思います。最終的に次回が最後の審議会という事になりますので、その最後の審議会におきましては軽微なところのものの修正、訂正っていうところにさせて頂ければと思います。</p>
山中委員長	<p>本日お出しいただいた意見で1回まとめて頂くという事になります。まとめて頂いたものがまた皆様のお手元に届きますので、またご確認いただくという事ですので、とりあえず今日はここまでという事になります。非常に重要なご指摘を多々頂きました。単なる文言の変更だけではなく、メッセージにも関わるところで、事務局の方々にはお手数ですけれどもバージョンアップされたもの待っていますので、よろしく願いいたします。次回の審議会では本日のご意見をもとに答申案にみぎきをかけて頂くという事になります。よろしく願いいたします。これで本日の議題は終了となります。</p>

次回は、令和元年9月24日（火）午前10時00分より生涯学習総合センター7階講座室1・2にて開催することを確認した。

11 閉会